

## 当院において発生した「外部寄生虫駆除薬」による有害事象についてのご報告

日本動物医療センターグループ  
CEO (本院 前院長) 上野 弘道

当院において、「外部寄生虫駆除薬」の処方を受け、服用した動物が、投与同日に神経症状を呈し、入院治療の結果死亡に至るという事象が発生いたしました。

お亡くなりになった動物のご冥福をお祈りいたしますと共に、今回の経緯を振り返り、病院として、薬剤取り扱いの安全性と再発防止に関する情報を発信することを目的として、皆様に経緯と対策に関して周知させていただくことと致しました。

### 事案

2020年9月、皮膚の不快感を主訴に来院された犬に対し、外部寄生虫の駆除を目的としてイソオキサゾリン系のチュアブルタイプの経口薬を処方致しました。同日にご自宅で処方薬を服用された後、痙攣発作様の神経症状が認められたため、当院を緊急受診され、その後入院下で治療を施すも残念ながら最終的に死亡に至るという経緯をたどりました。

### イソオキサゾリン系薬剤についての現状

旧来、ノミ・マダニを中心とした外部寄生虫駆除には、皮膚に塗布する、所謂「スポットオンタイプ」のフェニルピラゾール系、マクロライド系薬剤が多く使用されて参りました。イソオキサゾリン系の薬剤は投薬コンプライアンス向上を目的として「経口薬」という新たな投与経路の薬剤として導入されました。現在、イソオキサゾリン系の市場シェアは約7割との報告があり、当院においても複数メーカーより販売されている同系統の薬剤を含む製剤を導入し、毎年4000個を超える件数で処方して参りました。

投与禁忌として、8週齢未満、体重1.3kg未満、交配予定・妊娠授乳中であること、慎重投与として、てんかん発作の病歴のある犬との記載がございます。

また、薬物相互作用として、イソオキサゾリン系薬剤は蛋白結合率が高いため一部薬剤と併用注意となっております。今回の犬は、てんかん発作歴はありませんが、持病の心不全治療のために蛋白結合率が高いとされるACE阻害剤を服用中でありました。

### 問題点の抽出と再発防止策についての対応

・薬を処方するにあたり、作用・副作用情報などを獣医師が熟知し、その動物の年齢、体調、持病を加味したうえで、担当獣医師がご家族様への十分な説明を行うことが必須であります。しかし、当事例に関して確認を行ったところ、ご家族様からの問診、薬剤情報の把握、またその後薬剤選択に至るインフォームドコンセントが不足していたと考えており、獣医

師個人の改善に留まらず、病院組織の問題として改善が必要と考えております。

その対応に関しまして、至らない点に関してはご家族様に謝罪の意をお伝えし、今後の改善に関しまして、ご家族様と病院で継続した対話を行って参りました。

また、販売元のメーカーへの有害事象報告を行い、動物薬事の管轄である農林水産省への報告もメーカーを経由して完了していることを確認しております。

### 対応策の検討

1. 外部寄生虫駆除薬には前述のスポットオン製剤や経口薬など様々な種類がございます。「インフォームドコンセント」は医療スタッフがご家族様に正しい情報を提供し、方法をご選択いただく、同意を得るという過程を満たす必要がある中で、薬剤の選択肢（経皮投与、経口薬）や副作用に関して十分にご家族様に情報を提供し、ご納得のいく選択をいただけるようスタッフ教育に努めて参ります。
2. 本件以降、薬剤商品の添付文書の表記に加え、院内でも独自の有害事象情報を集約する取り組みを開始しております。獣医師個人に留まらず、病院単位で有害事象報告を定期的に収集し蓄積を行い、必要に応じた対策の検討、その結果をスタッフ全体に共有する仕組みを継続して参ります。
3. 残念ながらあらゆる薬剤には、その確率に差はあるものの、有害事象報告があるという認識をスタッフ全員が胸に留め、処方時に電子カルテ内の「薬データベースによる薬剤情報閲覧」と、アナログで薬剤処方スペースに配置された「添付文書一覧」の確認を習慣化します。さらに人為的な処方ミスを防ぐ取り組みとして、お薬がご家族様のお手元に渡るまで、3段階の薬剤チェック機構を設けるよう、院内業務を改定しておりますのでそちらを徹底して参ります。
4. 新たな薬剤の導入を検討する際には、効能だけでなく、安全性に関する検討を十分に行います。また導入決定後には、メーカーから商品に関する情報をスタッフが会得する機会を設けます。

### ご家族様のプライバシー保護について

今回の公開に関しましては、事前にご家族様の了解を頂いております。公表に際しましては、プライバシーの保護に最大限配慮を行い、個人の特定に結びつく情報は提供しないものと致します。ご家族様の了解がないもの、またプライバシーが保護できない可能性があるものについては公表しない場合がございます。

当院では、情報の透明性を高め、獣医療に対する信頼と安全を高める目的で、今後も適切と

思われるケースに関して情報開示を検討して参ります。

今後とも、動物とそのご家族様に、想いをもって安心を提供できますよう、スタッフ一同精進して参ります。お気づきの点がございましたらご助言いただけますと幸いです。引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。